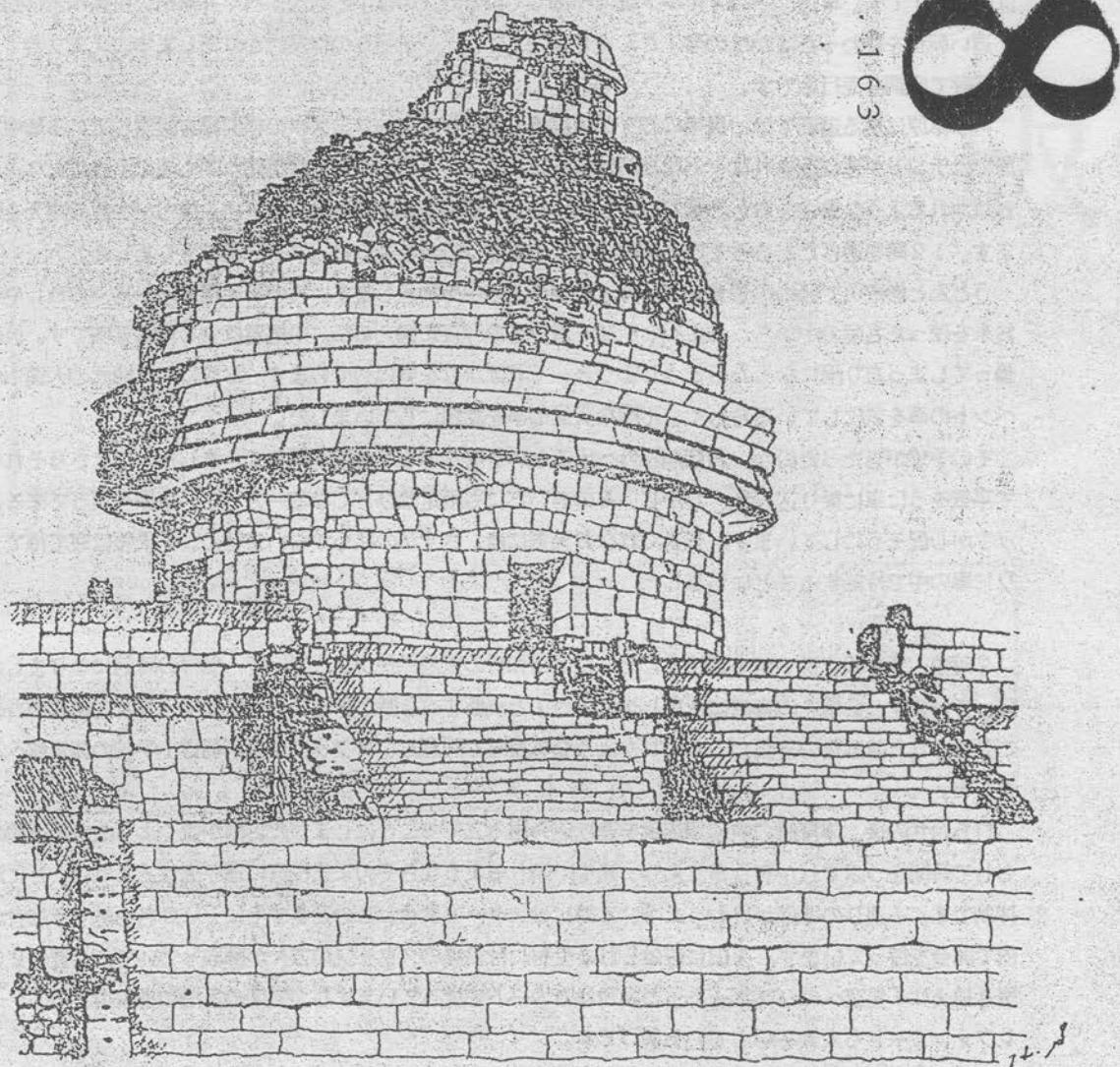


# 星向

STARS 8  
さやうれき

Vol. 163



星

月

STAR

∞

さやうれき

Vol. 163



清和村に集まつた350名余の星仲間が、来年の再会を約束して……

第一回 九州スターフェスタ

星の降る夜 IN 清和

8月11-12日、成功のうちに開催されました。 報告：TSU.

8月11日、午前10時に現地の草原に到着した私は、改めてグレッと当りを見回しました。

見慣れたはずの草原が、今日はまるで違った景色に見えています。杉の並木の一部が切れ、見晴らしが良くなっているし、草原には草刈機がいれられまるでゴルフ場のように見事な芝生が、青々と光っています。水道や発電機の準備も完了しています。仮眠場所の牛小屋跡も整備されていて、後はテントを張り望遠鏡をセットすれば準備完了です。早速、下のキャンプ場に宿泊している熊大の連中と合流すべく井無田公民館へと移動しました。遅い朝食を終わったばかりの学生さんをせきたてて、テント張りの作業にかかりだします。「天文台Tシャツ」も好評で順調な売れ行きです。

再び草原に戻る道筋では、役場の方々が道案内の看板やスターフェスタの横断幕を設置している最中です。草原ではテントが運び込まれ次々と組立が始まりました。11時頃から、時折晴れ間も覗くようになり、じりじりと焼かれるような暑さをむしろ楽しむかのようにして準備作業が進んで行きます。誰もが今夜の晴天を願っています。12時を過ぎたところでひと休み、私と中尾君は昼食をとりにAコーポまで下りました。

うどんと巻寿司で軽めの昼食をとって、後は売店の中を物色します。竹の子や椎茸の干物、おこしや煎餅などお米を使った名産の中から、おこしと煎餅を買い込み今夜に備える私。中尾君は少し緊張気味です。彼は、今夜曇ってしまったり雨になつたらどうしようと、そればかりを気にしています。お店にいた地元の人達も今日のイベントの事を気にしているらしく、不順な天候の事を話題にしていました。

その予感が当たったのか、お店から外へ出るといきなりポツリと雨が落ちてきました。ことさらそれを無視して平気そうに車に乗り込む私、しかし、そのあいだにも雨足はひどくなる一方です。草原へ戻つて来ると、スタッフが心配そうにしています。気まぐれなお天気には、さすがの私もかないません、「果報は寝て待て」とばかりに車の中で待機することにしました。…

2時頃、窓を叩く音で目を覚ますとそこには清和村の兼顕係長が立っていて「受付の時刻になりましたが雨が降っています、会場を体育館に変更しましょう」と決断すべき時がきたことを告げています。準備のために一番ご苦労された兼顕氏の言葉に、救われたような気持ちで同意し、スタッフ全員が朝日小学校の体育館へと移動しました。

打ち合せの後、体育館の中に望遠鏡を運び込み組み立てることにしました。雨が続くようなら望遠鏡の解説でもして時間をつぶすしか有りませんし、途中で晴れるようならそのまま校庭に運び出せるように、とにかく臨戦体制です。一通りの準備が終わった頃、4時にはスタッフ集合、このときすでに100名を越す参加者が体育館内で開会を待っています。入口に設けられた受付には役場のスタッフの方々が陣取つていて、会費の200円と引き換えに「星空へのパスポート」と名付けたカードを配っていますし、文楽の里清和を象徴するTシャツやテレフォンカードも人気を呼んでいるようです。

「開会は7時です、それまでは自由に過ごしてください」と言う声さえ耳に入らないかのように、会場内は熱

気を帶びています。各地から詰めかけた天文ファン達の交流や、熱心な人達からの質問の渦があちこちに出来ています。宮本さん手づくりの21cm反射鏡筒は、その精巧な筒先回転に質問が集中していました。ハレー観望用としてオーストラリアまでいったことも話題になりました。PC-9801の回りは、最新版のデスクトップ・アストロ・ナビゲーターを実演していること也有って、人垣の絶えることが有りません。特に、目ざとい子供達の集中放火を浴びて担当スタッフは入れ替わり立ち代わり、解説に汗を流していましたが、さすがにハイテクの先端を紹介するとあって、満足そうな表情であったのが印象的でした。

ところで、皆さんもう最新版のDEAN (Desktop Astro Navigator) をご覧になつたでしょうか？パソコン版プラネタリウムとしてかなりの完成度を持って登場したこのソフトは、天文台に於いてはすでに七夕の日に大活躍をしていましたが、今回の最新版に於いては画像DATAの表示もできるようになり、シナリオを制作することにより、天文現象の解説にさらに威力を發揮するものとなっています。まだの方は、天文台でぜひ触ってみてください。

話が横道にそれましたが、ほかにもパソコンは活躍していました。ピクセンのマイコン・スカイセンサーをPC-9801でコントロールするプログラムが作成されていて、実際に動かしていました。スカイセンサーに記号化されたコマンドを打ち込んでコントロールするのではなく、パソコンの画面に表示される日本語のメニュー画面にしたがって操作するだけで、望遠鏡が目的の天体に向かってコントロールしていくようすに、熱心なファンからの質問がつづいていました。マイコン・スカイセンサーへの理解が一層深まったように感じられました。

このように、会場内にいくつかの轍を作りながら時は過ぎて行きます。西空にかすかな青い切れ目をのぞかせつつ、降ったり止んだり。お天気はとても意地悪です。

6時、夕食の時間がやってきました。地元の農協の方々のご協力を得て、今回は私達スタッフは一切食事の心配なしで、準備や解説に専念できるのが大変助かりました。しかも、いくつか用意されたメニューの中から自分の気に入ったものを選んで食べることが出来ますし、全てがあつたかい手作りなのですから最高です。私はカレーを平らげた後、団子汁にも挑戦しました。とても楽しい夕食のひと時でした。（メニューについては資料参照のこと）

食後、7時までの間、私はいつもの不安と緊張とに責められていました。雨の日の事など誰も（心配症の私でさえ）何も想えていなかったのですから。開き直ってしまうまでに、多少の時間が必要でした。その後は、いつもの通りです。こうして第一回九州スター・フェスタ「星の降る夜IN清和」の開会は宣言されたのです。

開会の時、参加者は200名を超えていました。

台長さんの挨拶に続いて、清和村の村長さんのご挨拶を頂きました。

宮本さんは手短に、村長さんは親しみを込めて来場者に呼びかけられました。その後早速、記念品の抽選が始まりました。株式会社ピクセンから頂いた「星座早見盤」等、子供達を中心に村長さんから手渡して頂きましたが、余りの熱気に本当に圧倒されてしまいました。でも、おかげで会場の雰囲気もすっかり盛り上がり、司会者にとってはありがたい事でした。渡辺君の流星の解説スライドから会場が暗くなりました。少しハイ・アマチュア向けかなと思いましたが、会場はしんとしていて皆さん熱心に解説に聞き入っています。

ここで、5cm7倍の双眼鏡2本、2.4cm7倍の新型双眼鏡1本など、記念品の抽選を行ってから、いよいよ星座物語の始まりです。

会員でデザイナーの池永さんの絵をスライドにし、矢部アナウンサーが生語りで星座にまつわる神話や昔話を朗読しますと、みんなの目と耳が星座物語に吸い寄せられています。このときとばかり、私は外の様子を眺めに行きました。すると、あれほど雲に覆われていた空がいつの間にか晴れ上がっていて、薄雲はあるものの充分に

星が見える状態です。うきうきする心を抑えて会場に戻りました。

「いるかの物語」が終わって、再度の拍手がようやく静まった頃、天文台のスタッフに望遠鏡を搬出するように伝達すると、会場は大変なざわめきに埋め尽くされてしまいました。無理もありません、待望の土星・火星や流星が見えるというのですから。

準備が整うまで、会場では星座早見盤の使い方教室を急ぎ開催することにしました。家族で参加している熱心な数組の質問に答えているうちに、準備も整ってほとんどの人が運動場へ、望遠鏡のところへと出て行きました。体育館内には、私の他数人しかのこっていません。9時半にもう一度体育館に戻って貰うよう伝えて、やつと私はひと休み、それでも連絡が次々と入ります。

薄雲が流れ見えかくれする星達を相手に、日頃天文台の運営で鍛えられているせいか、我がスタッフたちがテキパキと観望対象を選んでお客様の目を楽しませている様子が分かります。これぞ県民天文台の本領発揮と言うところです。

そんな中で、時折大歓声が起こるのはどうやら大流星でも流れているらしい。はじめてみる流星に、こんなにも感激して貰えるなんて、思った以上の盛り上がりに疲れを忘れてしまいます。2度3度と歓声が上がっているところを見ると、ペルセ群はなかなかの活動をしているようです。

そんな時、受付で私を呼ぶ声がします。嬉しそうな声でした。長崎から「とみた」さんのグループが到着です。50cmの大ドブソニアンをもって今到着したのです。駐車場のくる間をかき分けて校庭へとワゴン車を導き、さあ、いよいよ50cm鏡の組立です。あちこちに工夫を凝らしたりっぱなドブソニアンが、その姿を現していくうちにその後ろにはすでに長蛇の列が出来ています。50cm鏡の見え味は如何だったのでしょうか、私は覗くことが出来ませんでしたので、その報告はどなたか直任者に譲りましょう。それにしても、片道5時間の旅をして「清和村」まで来て下さった富田氏以下6名の方々に、心からお礼申し上げる次第です。

いつの間にか売店では夜食のサービスが始まっています、どうもろこしとコーヒーが有り、私はどうもろこしを頂きました。一番おいしそうなを選んで貰い、ついでに、どうもろこしの選び方まで教えて頂けたのが嬉しかったですね。

ここまで出来れば、「今回のイベントの成功は間違ひ無し！」との確信が湧いてきました。後はどうやって9時半からの第2回目の星座物語に参加者を集合して貰うかです。

星空のもとで解放感を満喫している人達を体育館に集めることは、容易でないことに思われたからです。

しかし、このときはお天気が味方してくれました。9時半頃に、ちょうど全天雲に覆われてしまったので、皆体育館へと戻ってくれました。再び館内に陣取ろうとする人波が少し増えているような感じですから、私は受付で参加者数の確認をしてみました。そのときにも、まだ参加者は増え続けていてちょうど300人を越えるところでした。

第二部は、300人目の参加者へのプレゼントから始まりました。第一部で双眼鏡の抽選に協力してくれた子供達にもプレゼントをあげました。今度の物語は「かぐや姫」です。みんな良く知っているはずのお話ですが、矢部さんの語りに引き込まれて行くうちに現代にも通じる不思議な魅力を感じてしまったのは私だけではなかったでしょう。矢部さん、池永さんのコンビにはこれからももっと活躍して頂きたいと思いますし、会場にひびいた大きな拍手にもそんな気持ちが込められていたと思います。火星のイラスト付きポスターや、光る星座のしおり（会員の手作りによる）のプレゼントには大変な行列が出来ましたが、特に「しおり」は人気が高く「来年は販売してはどうか」という声さえ出る始末でした。とにかく、手作りのイベント中心に計画したことが参加者の共感を呼んでいるんだなと感じられ、とても嬉しい思いです。

この後、永井先生の解説でスライドの上映があり、第二部が終ったのは11時半頃でした。

普通ならこれでお開きと言うところですが、今回はまだまだ、これからが本番です。50cmドブソニアンに並ぶ人、各望遠鏡を次々に回る人、流星を待ち受けている人など校庭には沢山の人が出ていますし、パソコンにもずっと人垣が出来ています。私は、I・Iを持ち出して「流星の生録」に挑戦です。周囲にはやはり大勢の仲間が集まっています。記念撮影などをした後、本格的に撮影開始する頃不運にも雨に見舞われました。仕方なくI・Iをかたづけ、スタッフ一同車座になって夜食です。（これは今日の何食目かなー？）

パソコンと夜食とビデオの間を間をいったりきたりしているうちに、又空が晴れたようです。

I・Iを運びだして組立て、流星の出現を待ち受けること暫し、ついに明るい流星を捕らえることが出来ました。輻射点方向がずっと雲の中だったので、輻射点を狙うという目的は達せられなかつたけれど、一応満足すべきでしょう。こんな風にして、夜は更けて行き（夜は明けて行きかな？）私が寝たのは3時半を回ってからでした。別会場で朝まで飲んでいた人もあったそうですが、そこまではお付き合いできませんでした。

長崎のとみさんのグループは、朝には仕事に出る人もいると言うことで、2時過ぎに望遠鏡を積み込んで帰って行かれましたが、帰りの道中を思うと本当に「ご苦労様、気を付けて！」と言わずにはおれません。Y氏が218号線まで見送ってくれました。（お土産に、清和村からいただいた「文楽Tシャツ」と「文楽テレホンカード」を持って帰って頂きました。）

朝6時、さわやかに目覚めるともう朝食の準備が出来上がっています。

朝食は、和食のバイキングです。椎茸や竹の子それに山菜類や漬物、梅干しに卵に海苔、それからご飯と味噌汁。これだけあって400円は安い！と感激しながらの朝食。食事の後、閉会式を待たずに仕事に出る人達もいて、食事をしながら挨拶が飛び交います。それでも閉会式には150名くらいの参加者があったのではないか？この時のためにとっておいた文楽テレホンカードが、遠方からのグループ参加者に配されました。そういうえば売店には文楽Tシャツや文楽テレホンカード、それに昨夜紹介しておいた煎餅やおこしなども販売していましたが、売れ行きは如何だったのでしょうか少々気になりますね。

閉会式では、清和村の企画室長さんからお礼の言葉と来年も又やりましょうとの提案を頂いて、盛大な拍手のうちにその幕を下ろしました。最後に、閉会を告げるときには感激の余り思わず涙声になってしましましたが、誰にも気づかなかったでしょうか？記念写真の撮影も、全体で、そして各グループでと賑やかに行われ、大会旗も引っ張りだこでした。

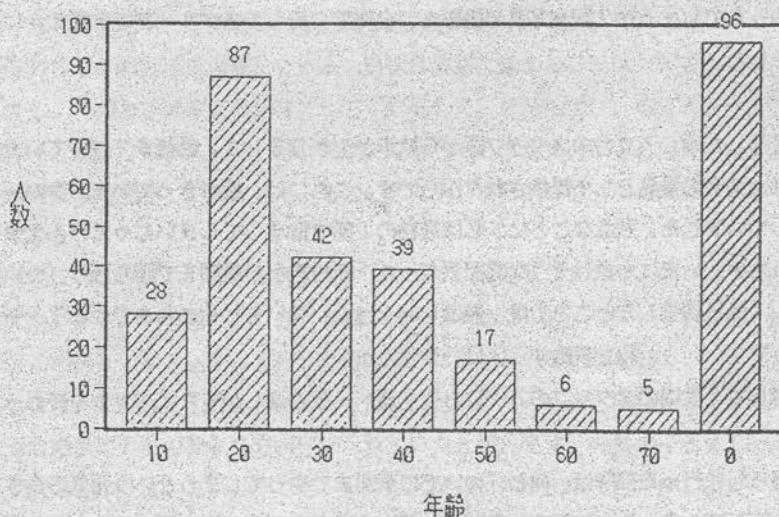
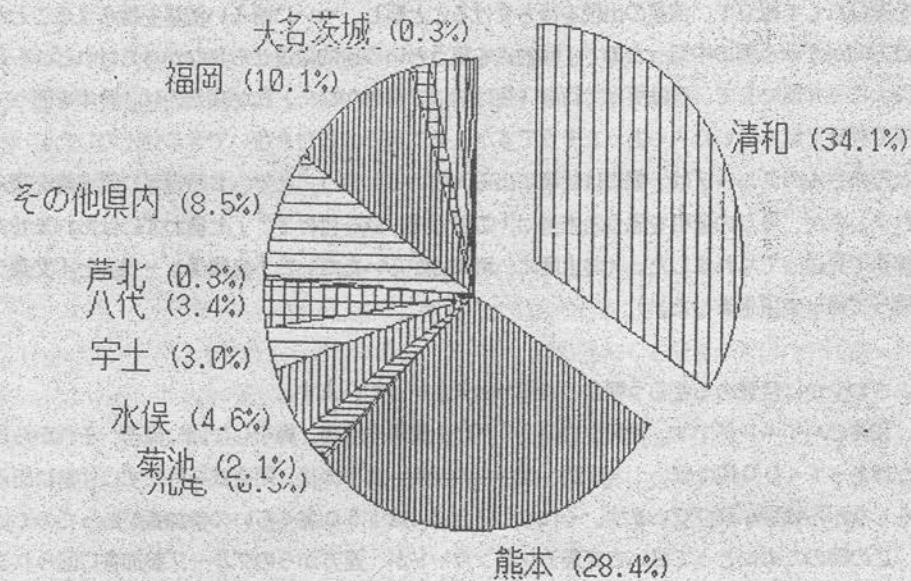
会場の整理も一段落した頃、天文台のスタッフ達から歓声が上がりました。最後まで残っていた「文楽Tシャツ」1枚がじゃんけん大会の景品として提供されたからです。これには、疲れきっていたメンバーさえも元気を取り戻して参加していました。残念なことに、私は最初の1回で敗北してしまいじゃんけん大会でも司会を務める羽目になりましたが、いまにも負けそうな雰囲気だった「新村君」が最期まで勝ち残り、ついにTシャツを手に入れたのです。（後日調査したところでは、彼はじゃんけんに強いらしくこれまでにもTシャツ等数々の戦利品を得ているそうです。．．．誰か挑戦する人はいませんか？）

スタッフ一同集合して、役場のスタッフの方々にお礼を述べ一夜の楽しかったイベントを終わって、それぞれ帰路に付きました。

天文台に機材を降ろしに行った部隊は、何と、ついでに草刈までやってしまうという元気の良さで、最後まで充実した「星の降る夜」でした。ここに紹介しきれない沢山の出来事があったと思います。それらに付いては、他の方の報告なり感想などにお任せして、私の報告を終わります。細かくは、資料を参照してください。

又、この場を借りて、協力して下さったスタッフの方々、遠方より駆けつけて下さった方々に厚く御礼申し上げます「お疲れさまでした、ありがとうございました、来年も宜しくお願ひします！」

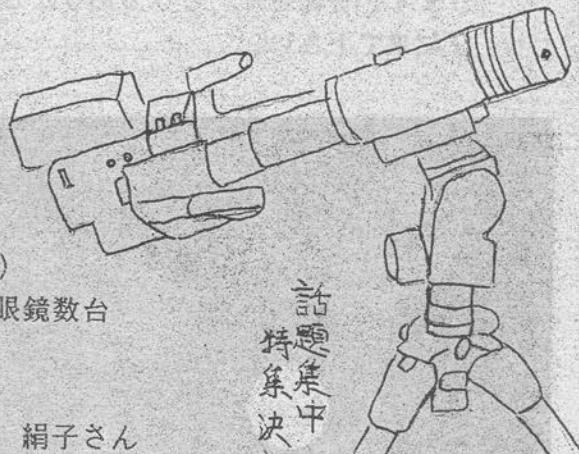
### 地域分布



### ☆望遠鏡

自作21cm反射赤道儀	(宮本)
旭精光製16cm反赤	(永井)
自作16cm反經	(々)
五藤Mark X 12.5反赤	(天文台)
高橋 MT130反赤	(々)
ビクセン12.5双眼鏡	(々)
“Tsu氏が直した”双眼鏡	(々)
高橋 MT130反赤	(熊大天研)
その他、会員・参加者持参の望遠鏡・双眼鏡数台	

これがI.I.だ!



### ☆スライド

絵 池永久美子さん 語 矢部 紗子さん

### ☆ビデオ

火星食（1986年天文台にて撮影）

I.I.で何だろう?と思うでしょう。  
これは暗い星でもビデオカメラで撮  
れるようにする機械なんですよ。

### ☆景品

メガネのヨネザワ より	
双眼鏡(7×50)	2台
ポスター	18枚
星座早見盤	100皿
観測手引書	50冊

メガネの大宝堂 より	
双眼鏡(7×20)	1台
ポスター	多数

### その他

ハレーの写真(艶島氏), 星食べよう(と言うおせんべい), うめぼし等々

### ☆食事のメニュー

夕食	ぶた汁, だご汁, カレー, うどん
夜食	とうもろこし と おにぎり
朝食	ご飯, みそしる, つけもん(いろんな山菜の), 卵(ゆで又は生)

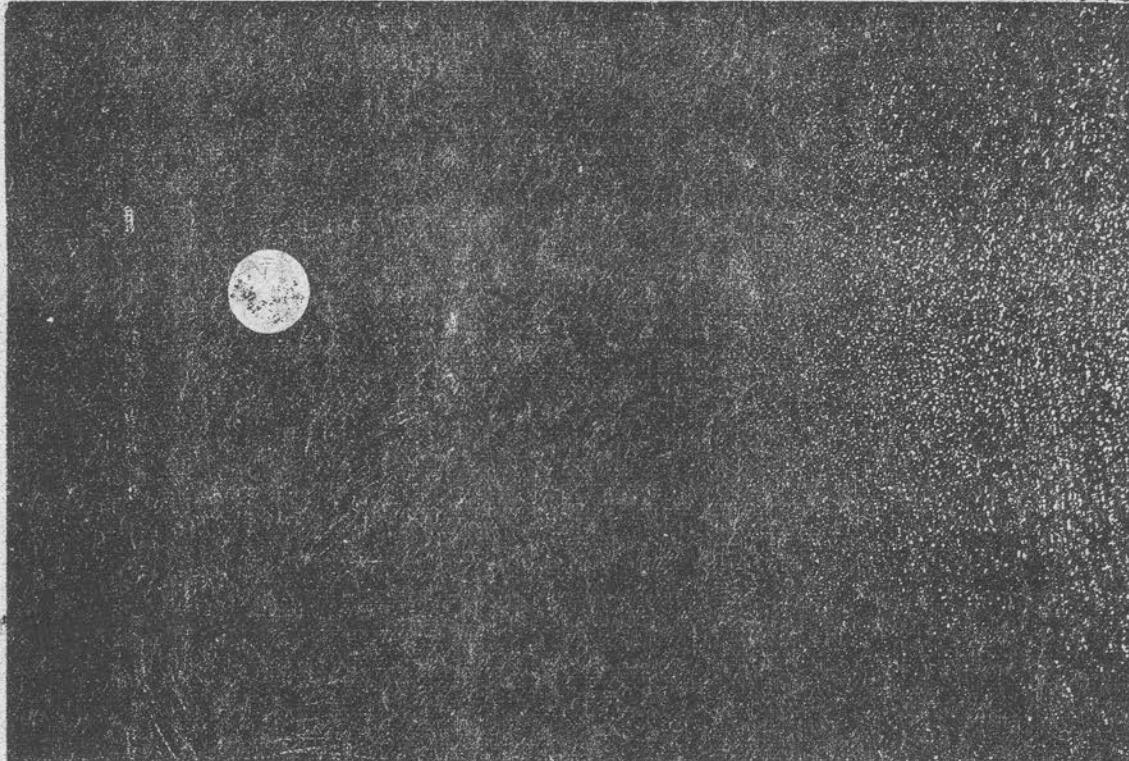
### ☆参加者 (五十音順, 敬称略)

大分天文協会, 熊本大学天文研究会, 九州女学院高校地学クラブ, 九州女学院一短期大学天文部, 啓光塾, とみた天体観測会, 水俣高校天文部, 福岡天文協会  
尚、一番遠い所では、茨城から佐藤さんがかけつけてくれました。

こんなかわいらしいお手紙を頂きました。

こんなお手紙をもらうと、ガンばらないといけないなと思って気合いが入ります。香織さん、どうもありがとうございます。これからも頑張りますから、また遊びに来て下さい。

カラーでないのが残念!  
すごくきれいな絵なんですよ。



# 暑中御見舞い 申し上げます

POST CARD

〒861-42  
(41-63)



下益城郡城南町

藤山 823

熊本県民天文台様  
(宮本草男台長様)

名前もせんせん知らないような奴から、こうやうのをもらうと、変な感じですヨネ。ずっと前に3回来たことがあります。今年の3月10日(木)に来ました。天文台長の方に、星座を教えてもらいました。といつても覚えてないです。地球は回ってるので、どうして自分がぼ~と立っていても景色は変わらないんだ?うる」と、変な質問をした奴です。覚えてら、しゃしませんか?

また変な質問ですが、「地球から海の水はどうしてジヤーと下に落ちないで、地球にひついているの?」だう」という質問です。これは、3月10日に来た時に質問したけど、答えは、忘れたので、もう1回質問しました。こんど行ける時に天文台に行くので、その時教えて下さい。

夏バテせずに、天文台での仕事もがんばって下さい。  
さよなら。Good-By.

〒861-41

下益城郡富合町木原2117-1

阪田香織☆中学2年☆さとり座

# 「火星の観察(スケッチ)」

1年6組 艶島 崇

## 目的

今年9月22日に、17年ぶりに地球に

大接近する火星の様子を大きな望遠鏡を  
使って観察し、記録すること。

## 方法

① 観測場所 熊本県民天文台

② 望遠鏡 31cm反射式望遠鏡

③ 倍率 285倍

④ 観察と記録

・夜の1時30分ごろから観察し始めた。

・スケッチの方法は、熊大生で天文台運営委員会の吉田さんに教えていたたいた

・10分間ぐらいい暗い所で目を慣らして観察しやすくする

・スケッチする紙の左の方には望遠鏡をのぞきながらじっくり書き、右に説明するように描く。

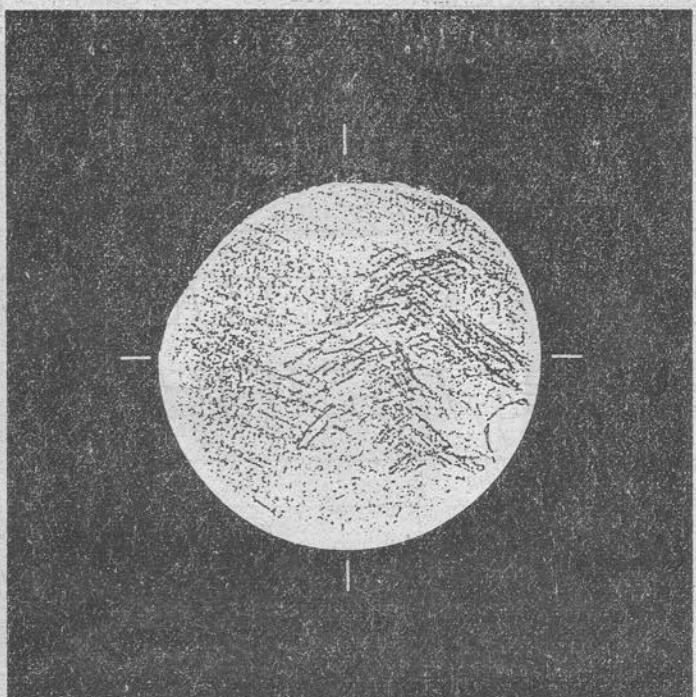
- ・望遠鏡との向き、模様見える向きを見て、薄く紙の向きのきめかたを教わった。
- ・約20分くらい時間とかけてじっくりスケッチする。
- ・白い円の中をえんぴつでうすくぬ、てゆびでこすりほかす。
- ・かけたにならかげでいう部分を黒くぬりついす。
- ・黒、ほくなっている所、白く光っていた所などに注意して描く。
- ・1時間くらい間をあけて二度、スケッチした。
- ・3時ごろに観察終了

観測日時： 年 8月 25日 / 時 45分

( 観測開始： | 時 40分 )  
観測終了： | 時 50分 )

観測者： 鮎島 勝  
観測地： 熊本県民天文台

C.M.： ( 中央絶度 ) DE： ( 中央緯度 ) Dia： ( 視直径 ) LS： ( 太陽黄緑 )



部分詳細図など

とても白く光って  
黒い



黒い

観測メモ  
空が晴れて、星がとても  
キレイだった。  
初めての火星スケッチ

望遠鏡：	31 cm	(屈屈)	f=2000 mm
接眼レンズ：	0.7 mm	( 285 倍 )	$\frac{2000}{285} = 7$
シーリング：	/10	透明度：	/10
天候等：	晴れ	精度：	/10

## 感想・気づいたこと

- 望遠鏡で1つ見ても月と同じような見え方をするかと思ったら、模様が動いて見えたので、びっくりした。
- 初めての火星観察だったが、スケッチも、うまくいったよかったです。
- 1枚目のスケッチのときより、2枚目の時の方が模様がよく見えた。
- 観察後、2枚目の真ん中の黒い模様は、太陽湖と教えてもらった。
- 上の方の白くまるい所を南極冠とよぶこと、南極冠は氷やドライアイスでできていることを知った。
- 模様は1時間の間に右から左へ少し動いているように見えた。
- 夜おそくまでとてもねむかったが、いろいろ勉強できてよかった。

八生ハソツア

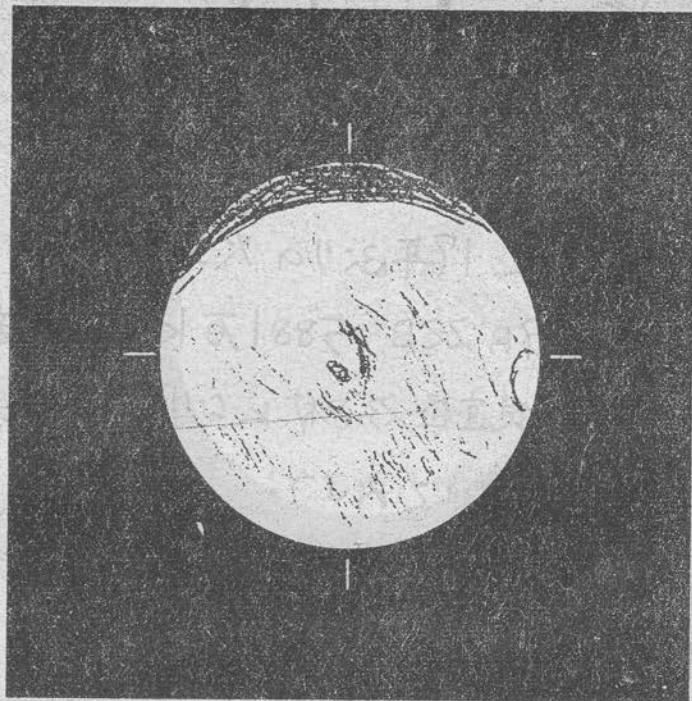
観測日時： 年 8月25日 2時48分

( 観測開始： 2 時 43 分 )  
観測終了： 2 時 57 分 )

観測者： 、 、

観測地： 三本里町

C.M.: ( 中央経度 ) DE: ( 中央緯度 ) Dia: ( 視直径 ) LS: ( 太陽黄經 )



部分詳細図など



観測メモ  
火星の太陽諸を初めて見た  
一回三つとも、まだ見つかって見えない

望遠鏡：	31 cm (辰・屈)	f=2000 mm
接眼レンズ：	0.7 mm (285 倍)	
シーイング：	/10	透明度： /10 精度： /10
天候等：	晴れ	

## 感想・気づいたこと

- 望遠鏡で1つ見ても月と同じような見え方をするかと思ったら、模様が動いて見えたので、びっくりした。
- 初めての火星観察だったが、スケッチも、よくいったよかったです。
- 1枚目のスケッチのときより、2枚目の時の方が模様がよく見えた。
- 観察後、2枚目の真ん中の黒い模様は、太陽湖と教えてもらった。
- 上の方の白くまるい所を南極冠とよぶこと、南極冠は氷やドライアイスでできていることを知った。
- 模様は1時間の間に右から左へ少し動いているように見えた。
- 夜おそくまでとてもねむかったが、いろいろ勉強できてよかった。

# 今年の目玉はこれ 火星だ！

なんと1971年以来、17年ぶりの火星大接近。

最接近するのは、9月22日 5881万kmまで接近！

等級は-2.5等、視直径23.8秒となります。火星の微妙な模様をじっくりと観察してみよう。



1986年に接近した時のスケッチ

火星スケッチ 観測者 松崎 1986年 6月30日24時45分～25時05分

太陽湖ファンクラブ会員No.17セイ



直径1.8mm

望遠鏡 ミカゲ31cm反射

視相良好 透明度良 天候晴



すごかった。11ヶ月ぶりに太陽近くがみえ。

複雑な運河がからみがみえた。ちょうど2時間前にとてしたものと比べると、模様の移動がわかる。また、シャイグや透明度のちがいが見えて、ちがいがよくわかる。

・父に観測した時の、地球から火星までのを  
計算してもらったら約6700万kmだった。

9月22日には、5881万kmまで近づくそうだ

スケッチをしてみたいと思っていても、なんか難しそうだな～と思っているアナタ！そんなに難しがる事はありません。御覧の通り、初心者の崇君がこれだけ立派なスケッチをしているんです。ぜひ、チャレンジしてみて下さい。スケッチ用紙は運営委員の誰かにいえば親切丁寧な解説付きでもらう事ができます。

8月は、夏休みということもあってか、天文台を訪れる人が例月に比べると多く、大変嬉しいものでした。でも、交通手段にバスを使っている方々の中には時刻表がなく、ついつい腰が重くなっている人もいらっしゃるのではないでしょうか。

今日は22日（金）に火星が最接近するので、できるだけ多くの人に見に来て欲しいので、時刻表を掲載しておきました。晴れた夜は、ぜひ火星を見に来て下さい。運営委員一同、心からお待ちしています。

#### センター発

17:00	鰐瀬
17:25	上ノ郷
17:50	木原
18:15	藤山（この便が便利）
18:40	城南
19:05	鰐瀬（日祝運休）
19:35	鰐瀬

#### 藤山発

19:03	センター
19:21	センター
19:55	センター
20:23	センター
	（日祝運休）

## —天文台日誌より—

★8/2(火) 曇 高田

『星の降る夜 in 清和』の景品、双眼鏡2コとポスターを中尾さんが頂いてこられる。

「あじさい」の位置予報がD E A N のマーカーファイルにできるプログラム完成。

★8/3(水) 曇 石原

もう帰ろうかなーと思っていたらお客様。お父さんが望遠鏡(90mm)で子供達に見せるので、今何が見えるかの説明で終わってしまった。だから何もできずに帰ろうとしている私です。少しでもしおりを作ろうかと思ったけどできませんでした。

★8/5(金) 晴 三上

ひさしぶりに透明度が良かった。

★8/6(土) 晴 木下

夕方は雲も多く今日はダメかなと思われたが、天気も回復し、久し振りの星夜となった。

M22 M13 M8 M27 アルビレオ ミザール 土星などを見てもらった。

cf II のテスト撮影

超新星発見に2人はパニック状態になる。が結果は・・・

艶島氏いわく「IIにはきをつけましょう」

★8/7(日) 晴 浅地

天の川の良く見える、透明度の良い星夜である。

★8/8(月) 晴 甲斐

掘田氏(熊大天研OB)、伊勢さん、神戸より来台。

★8/9(火) 晴&曇 新村

新慧星(1988J)が朝方オリオン座に見える。

★8/10(水) 曇のち雨 石原

ここに来る間に雨が降りはじめました。一応来てみたら高田さんと新村さん。プレゼントの包装を始めたら小林Jさんが掘田さんと伊勢さんを乗せてこられました。艶島さんも参加して明日の成功を祈りました。

★8/12(金) 曇 中尾

雲で何も見えず。電話がたくさんかかってきた。

★8/16(火) うすぐもり 新村

だ~れもこん。断水なのか水が出ん。

★8/17(水) 曇時々雨 石原

この天気だもん、誰も来んだろうと思っていたが、まあ“流星の日”から少ししかたっていないので一応念の為に来て見たらお客様。でも憊っている間にこの天気を見たお客様はサッサと帰ってしまいました。もう9:00になったので一人で自家製のアイスクリーム食べてやるんだ~い。

- ★8/18(木) 雨→晴 小林  
雨の中ヤボ用でくる。22<sup>h</sup>頃晴天となる。仕方がないので泊まり込んで1988Jを見る。
- ★8/19(金) 晴 安達 不つづき  
月 土星 ミザール アルビレオ M4を見てもらう。  
せっかくピザを持って来たのに学生は来ない。もう持つて来てやらないぞ。
- ★8/20(土) 晴後曇 永井  
上弦の月 土星 アルビレオ 火星(登ってきたばかりの) アルタイルと両側の星の話 GS-1観測予定 曇って見えず。  
25~26<sup>h</sup> 「火星」のビデオ撮影。風強く雲有り、極環は小さく白く輝いている。
- ★8/24(水) 晴時々曇 石原&立川  
本日TKUの取材でした。  
月 土星 火星 M31 星座案内 しおりを子供達が喜んで沢山持つて行ってくれました。宮本台長はコーヒーに塩を入れてうまかったそうな。
- ★8/25(木) 晴 もやあり 長谷  
月がありもやがひどく月、土星、天王星を見てもらつた。
- ★8/26(金) 曙所によりうす雲 吉田  
雲の切れ間に月だけを見ました。  
本日城南町より取材がありました。また写ってしまいました。  
安達さんはカゼでお休み。最近朝晩涼しいのでカゼに気をつけましょう
- ★8/27(土) 雨 甲斐  
今日は部分月食です。しかし...  
お月様どこにいるんでしょうね。
- ★8/29(月) 晴 石原  
月曜なのでようやく月の写真を撮らせていただきました。写ってるといいけどな。  
月が出てくるまでM13とか久し振りにゆっくり見ていました。
- ★8/30(火) 快晴 小林  
24<sup>h</sup> 慧星の為来てみると誰もいない。  
こんな日に、夏休みのこんな晴れた日に誰もいないとは。  
朝、1988Jを朔月と月明の中に見る。増光中!
- ★8/31(火) 晴時々曇 石原  
土星 M13 いるか座ヶ月  
とにかく元気な男の子です。ず~としゃべりっぱなしでした。片付けまで手伝ってくれました。

知ってましたか？

今、某放送局の『だからTKU』なる宣伝で天文台が出演しているんですよ。あのビデオ、今度天文台に来た新兵機 IIIカメラで撮ったものなんです。某艶島さんが2日間徹夜で撮影されただけあって素晴らしい映像が撮っています。ぜひ一度御覧になって下さい。

#### 新製品紹介

天体写真で白黒と言うとTP2415なるフィルムが好んで使われていますが、このほど、コダックからTmaxP3200というフィルムが発売されました。

コダック独自のT-粒子技術を採用したもので、当社従来のフィルムより感度がケタ違いに高く、EI50000でも使用可能と言う優れ者です。

EI3200~6400が標準ですが、T-max現像液を使用することによってさらに感度をアップすることができます。

感光は赤から青までバランスよくでるようです。また、ハイライト部がとびにくいやうで、従来のフィルムを増感処理したものより階調が優れているようです。

粒子は、高感度の割に細かく、よくそろっているようです。TP2415と比べると当然のことながら粗くはありますが、高感度という点でいろんな使い方ができるので、やういに活躍することでしょう。

#### 間話休題

我々熊大天研OUTDOOR課では、9月の9日から11日の新月の頃をねらって、九重に遠征を行ないました。

九重の坊ケヅルはまわりを山々にかこまれており、空の暗さでは清和村以上でしょ。そこで、写真を撮ろうと意気込んで、重いザックを背負い登つていったのに……

自然は皮肉にも天気をくずし、とうとう写真は撮れずじまいでした。

写真は撮れなかっただけど、ここまでこれた、これだけやれたという満足感はえられました。

でも、悔しい事に変わりはありません。残念です。

“いつか絶対にあの澄んだ空を撮ってやる!!”

---

今、月刊天文に新村史明さんと+α君（共に熊大天研所属）が、31cmで見た星雲・星団のスケッチを連載されていますが、そのスケッチを見て自分でも見てみたいと思われた方も多い事と思います。でも、惑星などと比べると必ずしも捜しやすいとは言えにくく、とうとう捜せずに終わった人もいらっしゃるのではないかでしょうか。

そこで、ちょっとした星雲・星団の捜し方を載せて見ました。澄んだ星空で捜してみてはどうですか？

# 鮮やか天体ショーア

## 火星17年ぶり大接近

十七年ぶりに地球に大接近  
している火星が、このところ

一段と鮮やかに見えるように  
登場中だ。

なつた。すっかり涼しくなりきながら、移動する姿はこの  
秋一番の天体ショーだ。

火星は地球のすぐ外側の軌

道を回る地球の兄弟星で、昔

からなしの深い惑星。一年  
二ヶ月おきに地球に接近して  
くるが、今月二十日の最接  
近の日は、その距離は大接近

の約半分の五千八百八十一万  
キロ。月までの距離の百五十倍  
余までに近づく。明るさはマ  
イナス二点九級で、他の星  
に比べて、さすがに明るく輝

いている。

火星は現在、午後七時ごろ  
には東から昇りはじめ、  
真夜中に南の空で高度約五〇度まで上る。また、火星に  
三時間ほど遅れて、火星と同  
じくらい明るい木星が東の空  
から昇り始め、秋の夜長、火  
星と木星の悠久な競演が

天空に繰り広げられる。

## 壮大星空のショーア

### 流れ星に歓声

益城郡清和村井無田の朝

日小で十一日夜から翌朝にか

けで、第一回九州スター・フ

月食「空振り」

二十四日未明に合わせて、星

が開かれた。同村と県民天文

台の共催。

清村は空気が澄んでいたこと

となくから天体観測には最適

で、これまでにもハート彗星

や、星やプラッド・ブリール

彗星などの観測に多くの天

での開会行事では宮本幸男同

見上げる参加者たち

清和村で九州スター・フェスタ

益城郡清和村井無田の朝  
日小で十一日夜から翌朝にか  
けで、第一回九州スター・フ

月食「空振り」

二十四日未明に合わせて、星

が開かれた。同村と県民天文  
台の共催。

清村は空気が澄んでいたこと

となくから天体観測には最適

で、これまでにもハート彗星

や、星やプラッド・ブリール

彗星などの観測に多くの天

での開会行事では宮本幸男同

見上げる参加者たち

益城郡清和村井無田の朝  
日小で十一日夜から翌朝にか  
けで、第一回九州スター・フ

月食「空振り」

二十四日未明に合わせて、星

が開かれた。同村と県民天文  
台の共催。

清村は空気が澄んでいたこと

となくから天体観測には最適

で、これまでにもハート彗星

や、星やプラッド・ブリール

彗星などの観測に多くの天

での開会行事では宮本幸男同

見上げる参加者たち

天文台長、甲斐村長が「流れ  
星を見たい」という人がこんな  
に集まつた。来年以降も催し  
を続けたい」とあいさつ。同  
天文台のメンバーがスライド  
を使って流れ星の説明をした  
り、TKUの矢部綱子アナウ  
ソナーの語りによる星の物語  
などがあった。

午後八時過ぎ、雲が切れて  
星が見え始めると参加者たち  
は早速運動場へ。天文台のメ  
ンバーの指導で望遠鏡をのぞ  
き込んで手元の星座表と照  
らし合させていた。お目当て  
の流れ星が星空を走り抜ける  
もかわらず、「木星や神戸、  
と拍手と歓声が上がり「プラ  
ンタリウムみたいな星空を初  
ねじまひだつた。

熊本地方気象台によると、

低気圧が黄海付近にあり、こ  
こから華南方面に延びている

で、この時は皆既月食とな

る。



# 日星月版



第一回九州スター・フェスタを開く  
県民天文台長の 宮本 幸男さん

朝日小体育館で星座教室を開く。  
日々では建築学を専攻する一方、

「毎年、八月の今  
じろは、ペルセウス

座流星群の極大日に  
当たり、流れ星をた  
くさん見るこ

とができるま  
す。高原で夜を徹して星空を  
眺め、流れ星を眺めるのも、  
いいもんですよ。ぜひ、多く  
の人に参加してほしいと思  
います」



熊本県民天文台と上益城郡  
清和村の共催で、十一日夕か  
ら十一日朝にかけ、第一回九  
州スター・フェスタ「星の降る夜」  
N清和」を開く。場所は清和村の井  
無田高原キャンプ場の一大草原。  
ここで「流れ星を見ながら、星空散  
歩を楽しもう」というユニークな趣  
向の催し。そのほか、天体写真教室、  
土星や火星などの観望会、スライド

は天気だけです」。雨の場合には近くの  
熊本県民天文台と上益城郡  
清和村の共催で、十一日夕か  
ら十一日朝にかけ、第一回九  
州スター・フェスタ「星の降る夜」  
N清和」を開く。場所は清和村の井  
無田高原キャンプ場の一大草原。  
ここで「流れ星を見ながら、星空散  
歩を楽しもう」というユニークな趣  
向の催し。そのほか、天体写真教室、  
土星や火星などの観望会、スライド

山岳部に所属、夜空を眺めている  
うちには星に魅せられてしまった。  
終戦の年に卒業、家業の材木店を継  
いたが五十七年、六十歳になつたの  
を機に、「自分は商売に向かない」と  
いう理由から店を元に任せ  
た。現在、熊本市立熊本博物  
館の嘱託として、プラネタリウム  
の説明をしている。五十一  
八年からは天文学のアマチュ  
アグループが独自に城南町に  
設置した県民天文台の台長も  
務めている。

星の研究を本格的に始めた  
のは四十歳から。仕事の傍ら、  
天体観測をしたり、天体望遠鏡をつ  
くったりの毎日。「星を眺めている  
と、宇宙へのロマンに誘われ、気分  
はさ生きままな催しやプログラ  
ムを計画。観測条件のよいサ  
イパンへの火星観測ツアーも  
人気を集め、天文ファンの間  
に火星ブームが起きている。  
次の大接近は十五年後の二  
〇〇三年とあって、今年は火  
星の白い極冠や、昔は「運河」と  
信じられていた黒っぽいま  
だら櫻様を観測する絶好のチ  
ャンスだ。

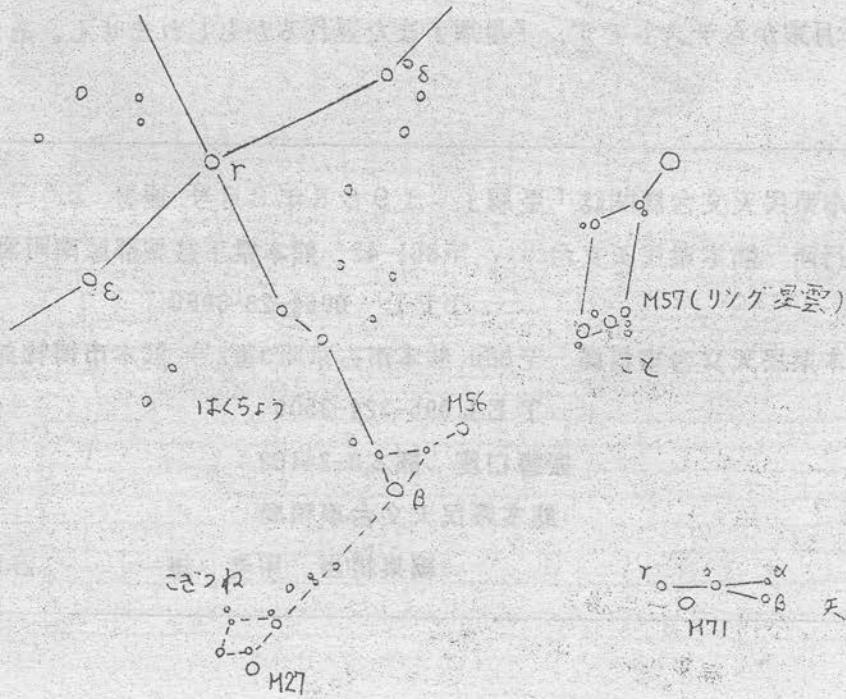
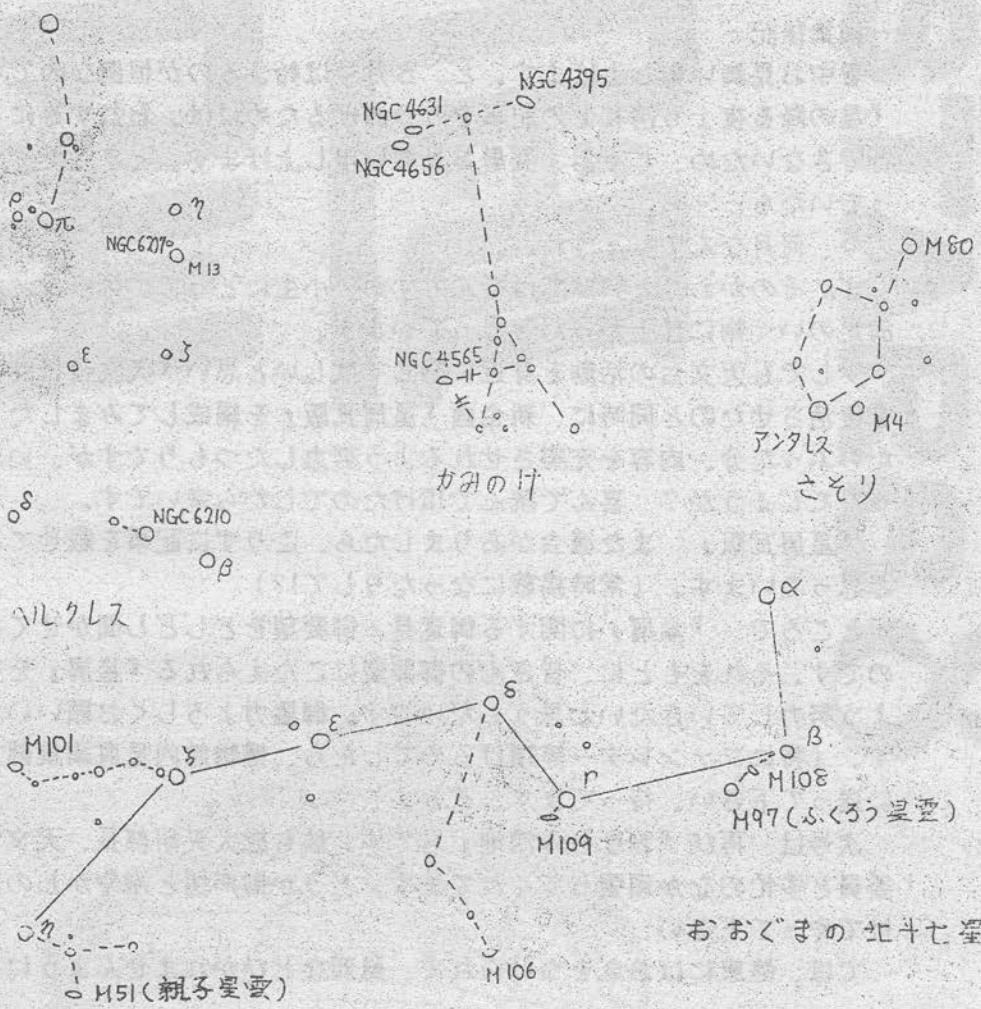
九月二十二日の最接近時に  
は、火星と地球の距離は五千  
八百八十二万キロ。六千万キロ  
は長円軌道を通るために接近  
時の距離はそのたびに違つて  
くる。

九月二十二日の最接近時に  
は、火星と地球の距離は五千  
八百八十二万キロ。六千万キロ  
内にまで近づくのは一九七一  
年以来のことだ。

八月から九月にかけての火  
星は、夜九時前後に地平線か  
ら約三〇度の高度で南東の夜  
空を見上げると、うお座の近  
くにひと際明るく輝き、肉眼  
でもすぐく、それと分かる。

火星は六百八十七日、地球

○二二日



-編集後記-

暑中お見舞い申し上げます。と、8月号は始まるのが恒例なのですが、『星の降る夜 in 清和』の記事をとりあげるために、お盆すぎにしか発行できないため、じゃあ、残暑お見舞い申し上げます。ときりだそうと思っていたら、……

今、何月なんでしょうねえ。

まぁ そのかわりといってはなんですが、小生にとっての第一号、かなり満足のいく物に仕上がったと思っています。

少しでも天文台の活動を身近に感じて欲しいと思い『天文台日誌より』を復活させたのと同時に、新企画『星屑瓦版』を編成してみました。もつたぶつた分、内容を充実させれるよう努力したつもりですが、いかがだったでしょうか？ 喜んで読んで頂けたのでしたら幸いです。

『星屑瓦版』 また機会がありましたら、こりずに記事を載せてみたいと思っています。（常時掲載になつたりして!?)

ところで、『星屑』に関する御意見・御要望をどしどし聞かせて欲しいのです。それをもとに、皆さんの御要望にこたえられる『星屑』を作れるよう努力していくたいと思うしだいです。御協力よろしくお願ひいたします。（特にファンレター等頂けるのでしたら、博物館内星屑編集部第3課に送って下さい。待ってます。ぞと。）

次号は、再び『おなじみ浅地』君です。彼も熊大天研部長、天文台運営委員と多忙のなか頑張ってくれています。どうか御声援と冷やかしの声をかけてやって下さい。

では、健康にはおきをつけられて、風邪などひかれませんように。

P S

今月末からテストです。『星屑』また遅れるかもしれません。あ～～

熊本県民天文台機関誌「星屑」 1988年8月号 通巻 163号

発行所 熊本県民天文台 〒861-42 熊本県下益城郡城南町藤山

TEL 0964-28-6060

熊本県民天文台事務局 〒860 熊本市古京町3番2号 熊本市博物館内

TEL 096-324-3500

振替口座 熊本8-24463

熊本県民天文台事務局

編集担当 甲斐 謙一

吉月吉日発行